

# 特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）



代理人

特許業務法人池内・佐藤アンドパートナーズ

様

あて名

〒530-6026

日本国大阪府大阪市北区天満橋1丁目8番30号O  
A Pタワー26階

PCT

国際調査機関の見解書  
(法施行規則第40条の2)  
[PCT規則43の2.1]

発送日

(日.月.年)

04.04.2006

出願人又は代理人

の書類記号 P041047P0

今後の手続きについては、下記2を参照すること。

国際出願番号

PCT/J P 2005/023798

国際出願日

(日.月.年) 26.12.2005

優先日

(日.月.年) 28.12.2004

国際特許分類 (IPC) Int.Cl. C30B29/36 (2006.01), C30B9/10 (2006.01), C01B31/36 (2006.01)

出願人 (氏名又は名称)

松下電器産業株式会社

1. この見解書は次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 見解の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☒ 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日

23.03.2006

名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/J P)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

宮澤 尚之

電話番号 03-3581-1101 内線 3416

4G

9278

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2005年4月)

## 第 I 欄 見解の基礎

1. 言語に関し、この見解書は以下のものに基づき作成した。

☒ 出願時の言語による国際出願

☐ 出願時の言語から国際調査のための言語である \_\_\_\_\_ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文  
(PCT規則12.3(a)及び23.1(b))

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、  
以下に基づき見解書を作成した。

a. タイプ ☐ 配列表

☐ 配列表に関連するテーブル

b. フォーマット ☐ 紙形式

☐ 電子形式

c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれていたもの

☐ この国際出願と共に電子形式により提出されたもの

☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出されたもの

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

## 第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

## 1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-17	有
	請求の範囲	18, 19	無
進歩性 (IS)	請求の範囲	1-17	有
	請求の範囲	18, 19	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-19	有
	請求の範囲		無

## 2. 文献及び説明

文献1:JP 2000-503968 A (クリー リサーチ インコーポレイテッド) 2000.04.04

文献2:JP 2000-264790 A (株式会社日立製作所) 2000.09.26

文献3:JP 56-96799 A (東京芝浦電気株式会社) 1981.08.05

(1)請求の範囲1~17に係る発明は、国際調査報告で引用された何れの文献にも開示されておらず、新規性を有する。特に、アルカリ金属フラックス中においてシリコンと炭素を溶解することは、何れの文献にも開示されていない。

(2)請求の範囲18及び19に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1から新規性を有さない。請求の範囲18に記載された炭化珪素単結晶は、その特徴を製造方法によって特定しているが、最終的に得られた炭化珪素単結晶として比較した場合、文献1に記載されたポリタイプが2Hや3Cである炭化珪素単結晶と実質的に同一である。

## 第Ⅷ欄 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

請求の範囲18には、炭化珪素単結晶に関する発明が記載されているが、その特徴を製造方法によって示しているため、炭化珪素単結晶としてどのような特徴を有しているのか不明瞭である。